



終戦—筑豊へ6 炭坑の生活12 一九四六年のこと19 労働組合で働く24

アナキスト連盟と九州地協35 共産党吉隈細胞とのたたかい39 組合長として45 福佐新聞会と無政府農園56

『自由共産新聞』と『平民新聞』61 原水爆禁止運動とアナキスト議員の誕生69 鉾害反対闘争75 付記83

補遺—副島辰巳の演説86 伊串英治のこと87 小川正夫との出会い87 山鹿泰治・クラシアきたる90 山鹿さんの死91 四百メートルのシカチャン93

思い出すままに 98

最初の記憶99 ワンパク時代102 大杉栄と震災の思い出104 新聞記者となる

107 名古屋時代—応召と帰還110 逃避行115 開戦119 芳子のこと120

歴史の流れの中で 126

自由の道を阻む者126 幸福への抗争128 職業化した政治132 革命は起こり得るか?133 人類の滅亡を願うもの136 世界平和者会議138 世界平和と人間革命140 原水爆禁止運動所感142 事前運動のいろいろ145 選挙で救われるか148 叛逆によって権力をマヒさせよ150

細胞は労働者の敵か味方か151 末端労働者は泣く153 支配者にあたえた戦術

154 「緊急調整」を待っていた組合幹部 156 労働者の自由と解放のために 158  
労組指導者 161 炭坑町のこの頃 164 アナキストの反公害運動 168

入道雲 171 ある夕景色 173 池の辺りで 175 石のいのち 177 トンチャン仲間 179

著者あとがき 182

運動史のなかの一九五二年―解説にかえて― 184 向井 孝